



Title: 地面の下を読む

先日、たまたま午前2時台に犬の散歩をしたところ、北東の空に見慣れたスバルとオリオンの姿を見つけました。えっ、8月なのに？その後そんな時間の散歩をしていないし星座も見えないので、あれが本当だったのかどうかだんだん自信がなくなってきました。

❖片貝遺跡をみる

8月22日の本紙に、わが母校西館中学校（昭和45年比内中に統合）の校章が市に寄贈されたというニュースが載っていました。毎週校長先生の長い「お話」を聞きながら、演台の校章を嫌というほど眺めていましたが、今となっては懐かしい。現在は比内養護学校が建つそこからほど近い達子森西麓で「片貝遺跡」の発掘が進み、去る8月1日に見学会が開催されました。いやあ、おもしろかったです。

今のところ遺跡からは、縄文時代（案内の方の見立てでは縄文後期）と平安時代の遺構が検出されています。

縄文時代の遺構は、落とし穴が30あまり。大きさはいろいろですが、数が多いのは幅20cmほどの細長いもので、言われなければ落とし穴とは思えません。けもの道に沿って並んでいるようで、カモシカなどの前足が狭い溝のような穴にはまった場合、爪先が地面につかないともう動けないとのこと。実際に穴を見ると大した工夫だと感心させられます。

平安時代の遺構は竪穴建物跡14棟、掘立柱建物跡2棟などで、竪穴建物跡は概ね4～5m四方ほどのサイズと2m四方くらいの小さなものの2種類があります。それぞれにカマドの跡があるので人が住んでいたのでしょうか、一人用テントほどの広さしかない中に、いったい何人が暮らしていたものか。考えてみると平安時代の図象的イメージといえば、絵巻物に描かれた京の内裏や寺社、合戦、何より十二単を着た下膨れの平安美人がせいぜいで、蝦夷の国の庶民の姿は想像できませんよね。縄文の裔としてそれなりの文化を持っていたと思いたいのですが。

片貝遺跡からの出土品では「寺」と墨書された土器が注目されました。同様の土器は北秋田市や鹿角市からも出土していて、米代川流域がひとつの文化圏をなしている証拠とも言えるでしょう。遺跡は今回の発掘場所の南側にも広がっているはずで、いずれそちらも発掘していただくことを熱望しています。

❖大館の遺跡を知る

平安時代の遺跡の年代区分の指標としては915年の十和田火山の火山灰が大きな役割を果たしています。片貝遺跡も火山灰の堆積状況から、噴火前、噴火時期、噴火後のいずれの時期も集落が営まれていたことが明らかです。これまで一番反響があった5月22日の当コラム「十和田湖は活火山」と、何かつながったような感じがします。

現在明らかになっている大館市内の遺跡は290にも上ります。河岸段丘とか舌状台地といった要するに近くを川が流れる高台には、大概むかしの人々の暮らしの跡が埋まっていると思っていよいよです。三内丸山のような圧倒的なスケールは望め

ないにしても、ひとつひとつの遺跡がわれわれの祖先や先住者につながるという感覚は、この地に住む者として共有したいもののひとつです。市内の遺跡では、塚ノ下遺跡(大茂内)から出土した両眼の部分にアスファルトを充填した4千年前の土偶など、見るべきものが結構あるんです。ということで、図書館の類縁施設である博物館の催しのご案内を。

大館郷土博物館で9月1日から11月3日まで、特別展示『発掘された大館の遺跡』が開催されます。秋田県埋蔵文化財センターの出張展示ということで、充実した展示になること間違いなしです。9月19日(土)には同センター主任文化財専門員の高橋学氏による(ぎょう)チャリートーク(出土品解説)も行われます。通常の入館料(一般300円、高大200円、小中100円、ただし市内の小中生は無料)はかかりますが、特別展示の別料金はかかりません。9月12日までは大学生以下無料、11月1日と3日は全て無料とのこと。ぜひこの機会にご覧ください。ついでに一言、郷土博物館の最近の充実ぶりは相当なものです。常設展示を見るだけでもおもしろいですよ。

もうひとつ。岩手県立博物館(盛岡市上田)で9月19日から11月23日まで開催されるのが『火山灰から社会をよむ—10世紀の巨大噴火と北東北—』。一般310円、学生140円、高校生以下無料。両博物館とも月曜休館で、祝日の場合次の平日が休館になります。

❁お知らせを2つ

市立図書館からのお知らせを忘れるところでした。9月5日から30日まで、中央図書館で恒例の『雑誌・古本プレゼント』が始まります。1人5冊まで。なくなり次第終了です。

第46回大館市読書感想文コンクールは応募受付中です。9月15日締切り(当日消印有効)。たくさんの応募をお待ちしています。(陽)